

# 学校教育課 経営計画書（総括表）

## ■事務事業の総括

No.	事務事業名	様式 区分	H24 年度計画額（単位：千円）		H24 年度必要人工	
			計画額	内特定財源	職 員	臨時職員
1	教育委員会事業	B	2,131	0	0.6	0.1
2	学校教育管理事業	B	20,528	8	0.5	2.2
3	小学校運営事業	B	77,757	0	0.3	22.1
4	小学校施設管理事業	B	45,142	325	0.5	0.0
5	小学校整備事業	B	986	0	0.4	0.1
6	小学校教育振興事業	B	8,114	200	0.3	0.1
7	中学校運営事業	B	42,141	140	0.3	10.1
8	中学校施設管理事業	B	30,802	12	0.5	0.0
9	中学校整備事業	B	18,204	0	0.2	0.0
10	中学校教育振興事業	B	11,536	70	0.3	0.1
11	社本育英事業	B	350	12	0.3	0.1
12	明日の学校づくり施設整備事業	A	459,464	459,046	0.8	0.1
合 計			717,155	459,813	5.0	35.0

## ■特記事項

# 事業別経営計画書【B】

## ■基礎情報

所属名	生涯教育部 学校教育課		No. 1
事業名	教育委員会事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	1	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	学校の、基本的な運営方針の決定等における中立性、小中学校の学習期間を通じた教育の継続性及び安定性を確保し、また、広く地域住民と連携しながら、子どもの健全な成長発達を目指すことを目的とする。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会定例会</li> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>		
現在における 経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会定例会は、議案審議が主となっているが、議案の約半数が後援名義使用許可であり、教育委員会として、今後の学校教育について協議する時間に多くを割くことができていない状況である。</li> <li>・平成23年12月から、後援名義使用許可の際、原則、新規案件のみを議案とする方法に見直した。</li> </ul>		
平成24年度の 目標又は 改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定例会では、可能な限り、毎回、テーマを設定し、テーマによっては、検討結果を踏まえた提案をしていけるような会議運営に改める。</li> <li>・テーマの設定については、中央公民館の耐震化工事、図書館のあり方等、生涯教育部の各課の検討事項を取り上げ、部全体の課題を検討するよう改める。</li> <li>・平成23年度から、学校の現状を把握するため、定例会を大口北小学校及び大口中学校で開催した。平成24年度は、大口南小学校及び大口西小学校で開催する。</li> </ul>		

## ■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4 ～ 3	定例会（毎月1回開催）  * 10月臨時会 委員長及び委員長職務代理者の選任（任期は1年間）

## □3年間の目標

目標	.					
	.					
項目（単位）	H22 計画	H22 実績	H23 計画	H24 目標	H25 目標	H26 目標

## □2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H25 年度	.
H26 年度	.

## ■事業コスト

		単位	H22 年度決算額	H23 年度当初予算額	H24 年度計画額
事業費		千円	1,786	2,027	2,131
(内特定財源)		千円	0	0	0
人工	職員	人工	0.7	0.6	0.6
	臨時職員	人工	0.1	0.1	0.1
	計	人工	0.8	0.7	0.7

## ■平成 24 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
合計		

## ■平成 24 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容

## ■特記事項

--

## ■目標又は改善策に対する取組内容

教育委員会定例会では、委員の発案により図書館をテーマに設定し、4月から1月にかけて、図書館の現状、施設の有効活用及び将来について協議した。

学校の現状等を把握するため、定例会を学校で開催し、大口南小学校及び大口西小学校で開催した。

また、従来から、会議の傍聴は可能であるが、会議の公開及び非公開の原則、会議を非公開とする場合の手続きを明記するため、平成24年10月、大口町教育委員会会議規則を一部改正し、併せて、傍聴人の定員、傍聴の手続き等について定めている大口町教育委員会傍聴規則を全体的に見直した。

## ■評価

月1回の定例会で、限られた時間の中、一つのテーマについて継続して協議したことは、僅かながら、これまでの議案審議が中心であった会議運営から一歩進んだのではないかと考える。

今後も、教育委員会として協議した結果をもとに、生涯教育部内の各課が具体的な施策を進める取組が求められる。

# 事業別経営計画書【B】

## ■基礎情報

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	2
事業名	学校教育管理事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	1	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校、家庭、地域社会の連携のもと、開かれた学校づくりと授業改革を目指すとともに、教員の資質向上を図る。</li> <li>・確かな学力の定着と豊かな心の育成、また、健康や体力などすべてにおいて調和のとれた子どもを育むため、子ども一人ひとりの個性を伸ばす教育を推進する。</li> </ul>		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適応指導教室</li> <li>・ 就学時健康診断</li> <li>・ 教職員等健康診断</li> <li>・ 私立高等学校等授業料補助</li> </ul>		
現在における 経過又は課題	<p>適応指導教室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室は、学校復帰が目標であり、在籍者数はほぼ横ばいで推移しているが、個々の状況に応じて取り組んでいる。保護者、学校、教室間の連絡調整を密にする必要がある他、入室には至らないものの不登校の恐れがある児童生徒がいる。</li> </ul> <p>私立高等学校授業料補助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成23年度は、検討した結果、前年度と同内容の補助とした。今後、国の動向を見極めて対応する必要がある。</li> </ul>		
平成24年度の 目標又は 改善策	<p>適応指導教室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの学校復帰を第一とし、保護者、学校、教室間の連絡調整の仕方を今一度、再検証し、具体案を決定、実施する。</li> </ul> <p>私立高等学校授業料補助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国の動向を踏まえながら、単なる補助額の増減のみで考えるのではなく、大口町の教育全般として検討し、決定する。</li> </ul>		

## ■作業工程（当該年度）

月	作業内容
	【適応指導教室】
4	平成 24 年度経営案の作成、連絡会議
7	保護者会
9	連絡会議
12	保護者会
3	平成 25 年度経営案の作成、連絡会議
	【私立高等学校授業料補助】
7	制度の方針決定
9	申請の案内(学校)
10	申請の受付
12	申請の内容審査、補助金の支払

## □3年間の目標

目標	.					
	.					
項目（単位）	H22 計画	H22 実績	H23 計画	H24 目標	H25 目標	H26 目標

## □2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H25 年度	.
	.
H26 年度	.
	.

## ■事業コスト

		単位	H22 年度決算額	H23 年度当初予算額	H24 年度計画額
事業費		千円	19,172	22,103	20,528
(内特定財源)		千円	1,640	8	8
人工	職員	人工	0.6	0.5	0.5
	臨時職員	人工	2.1	2.1	2.2
	計	人工	2.7	2.6	2.7

## ■平成 24 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
学校基本調査事務市町村交付金	7	
図面、用紙等売払収入	1	
合計	8	

## ■平成 24 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容

## ■特記事項

--



## ■ 目標又は改善策に対する取組内容

### 【適応指導教室】

児童生徒の学校復帰する力の育成、基礎的な学力の定着と集団適応能力の育成、基本的な生活習慣の定着を目標に、主として次の取組みを行った。

#### ①学習指導

各児童生徒の現状と実態を踏まえ、週間予定表に基礎学習の時間を系統的に設定し、教材教具を活用しながら、すべての学習の基本となる国語及び算数（数学）の基礎学力の定着を図った。

#### ②集団適応指導

保護者にも参加を呼びかけながら、スポーツ、ゲーム、校外学習、料理教室等を実施し、他の人と関わり合う機会と場の提供を設定することで、外出や多人数での行動に対する恐怖感の克服を目指した。

#### ③学校行事への参加

児童生徒の気持ちに配慮し、無理のない範囲で、在籍校の行事への参加、興味関心のある授業や活動に参加させ、適応能力の向上につなげた。

#### ④関係機関等との連携

適応指導教室、在籍校、保護者及び教育委員会が、各々の役割を共通理解して連携し、児童生徒の支援にあたった。

### 【私学授業料補助】

私立高等学校等授業料の補助制度は、公立高等学校と私立高等学校等の間における保護者の授業料負担の格差是正、教育の機会均等の原則を確保、私立学校等教育の振興に寄与することを目的としている。

平成24年度、補助金額は平成23年度と同内容で実施したが、従来、別様式であった在学証明の内容を見直すとともに申請書として1枚にまとめ、利便性を図った。

## ■ 評価

### 【適応指導教室】

平成22年度から年間計画に位置づけた在籍校との連絡会議を3回（5月、9月、3月）、学習や生活の状況、今後の見通しを確認する保護者会を4回（4月、7月、12月、3月）、それぞれ実施し、関係者の考え方、課題を共有することで、各児童生徒に差はあるが、学校復帰に向けた支援にあたることができ、連携を深めることができた。また、スポーツの機会を増やし、児童生徒と教室指導員との連帯感が深まったこと、学校の強い支援、生徒や保護者の努力の結果として、年度途中で1人が学校復帰することができ、また、他の1人は、短い時間ではあるが、学校での活動に参加できるようになった。

児童生徒で抱える問題や状況が違うため、目標や支援の設定が難しい面があるが、例えば、毎週、各自で予定表を作成する際、「今週はここを頑張る」といった自らの学習に向かう姿勢、学校復帰に向けた意識づけを支援し続ける必要がある。また、関係機関等とは、会議等を通して各々の役割を明確にした上で、引き続き、連携強化に努める。

### 【私学授業料補助】

補助金額については現行制度により補助を実施したが、複数枚だった申請関係書類を1枚に見直したことは、学校や保護者の負担軽減に繋がった。補助金額については、今後、引き続き、国の制度が変更された場合は検討する。

# 事業別経営計画書【B】

## ■基礎情報

所属名	生涯教育部学校教育課	No.	3
事業名	小学校運営事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	1	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	学校・家庭・地域社会の連携のもと、開かれた学校づくりや授業改革をめざした教員の資質向上を図り、学校教育の目的を達成するために、適切かつ効果的に教育事務を推進する。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育調査、統計、広報等</li> <li>・教科書、教材購入</li> <li>・児童の健康診断</li> <li>・各種検査・テスト</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術鑑賞会</li> <li>・スクールバス運行</li> <li>・英語指導助手講師派遣</li> </ul>		
現在における経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校では、各学校の特色を活かした活動を進めるとともに、学級を基盤とした児童の豊かな心を育む教育活動を進めている。</li> <li>・教育の多様化に対応するため、学校施設、設備等の教育環境や、人的資源等の有効活用を一層研究し、児童の意欲を喚起する学習指導の推進、道徳の授業を重視した豊かな心の育成に取り組む必要がある。</li> </ul>		
平成 24 年度の目標又は改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の育成を図るとともに、教職員に対する各種研修を通じ、学校施設、設備等の教育環境や、人的資源等を有効活用した教職員の創意工夫と授業力の向上を図る。</li> <li>・各学校において、これまでの経過で得た成果、課題等をもとに学校経営計画を策定し、各学校の特色を活かした、地域に根ざした学校づくりとして、独自の教育活動の充実を更に図る。</li> </ul>		

## ■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4	目標の設定
10	前期の評価・検証、後期へ向けての活動内容の確認
3	後期の評価・検証、次年度へ向けての課題、改善策の確認
	<p>【年間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級活動を基盤とした教育活動を実施し、その都度、問題点の把握と情報共有を図り、改善策を検討する。</li> <li>・児童一人ひとりに学習意欲を持たせ、基礎学力の向上を図ることで、自ら学ぶ姿勢を育む。</li> </ul>

## □3年間の目標

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>					
項目（単位）	H22 計画	H22 実績	H23 計画	H24 目標	H25 目標	H26 目標

## □2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>
H26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>

## ■事業コスト

		単位	H22 年度決算額	H23 年度当初予算額	H24 年度計画額
事業費		千円	87,727	83,928	77,757
(内特定財源)		千円	2,091	0	0
人工	職員	人工	0.4	0.3	0.3
	臨時職員	人工	20.8	21.5	22.1
	計	人工	21.2	21.8	22.4

## ■平成 24 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
合計		

## ■平成 24 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容

## ■特記事項

- ・平成 21 年度学校情報通信技術環境整備事業費補助金の交付決定を受けて導入した大口町立小中学校教育ネットワークコンピューター式等のリプレイスに係る経費を、平成 26 年度当初予算に計上する必要がある。

## ■ 目標又は改善策に対する取組内容

### 学校経営

各小学校は、児童の育成のための教育活動を進めるため、次のとおり教育目標を掲げ、学校経営を行った。また、学校教育課は各小学校の特色ある学校づくりを支援し、学校のより一層の活性化を図った。

【大口南小学校】人間尊重の精神を基調に、夢や希望をもつ心豊かな児童の育成（「明るく思いやりのある子」「よく考え進んで学習する子」「健康でたくましい子」）を目指した。

【大口北小学校】児童が生涯にわたり、人間として成長を続けていく基盤となる力を養うとともに、知・徳・体（「よく考える子」「きまり正しい子」「たくましい子」）の調和のある人間形成を図った。

【大口西小学校】「自立する子（自分を大切に生きていく子）」の具現化に向け、「三つの大切（自分の考え、友だち、心と体）」「三つの願い（明るい学校（あいさつ）、きれいな学校（清掃）、うるおいのある学校（環境））」「五つの信条（教師の姿としての「共感」「実践」「創造」「研修」「信頼・尊敬）」を意識して教育を実践した。

### 学校教育課

学校教育課による小学校運営事業では、「生涯学習の基礎・基本を身に付けるための学校教育の充実」「児童の安全・安心を優先した教育環境の整備」「地域全体で子どもを育てる環境づくり」のため、各小学校の学校経営を進める手だてとして、主に次の事業を実施した。

#### 【少人数指導講師の派遣】

児童の状況に応じた授業を行い、基礎・基本の確実な定着を行った。

#### 【外国語活動指導助手派遣】

新学習指導要領での外国語活動を踏まえ、英語によるコミュニケーション能力の素地づくりを進めた。

#### 【学校支援員の配置】

学校全体の支援としての配置を継続し、運用した。

## ■ 評価

### 学校経営

学校経営の一環として、大口南小学校では「図書館教育・読書指導を通じた教育活動」、大口北小学校では「みどりと環境から学ぶ活動」、大口西小学校では「ピオトープを活用した体験活動」を継続しており、地域住民の協力を交えた活動が醸成されている。引き続き、地域に溶け込んだ学校経営を目指し、地域で子どもを育成する仕組みを整えていく。

### 学校教育課

#### 【少人数指導等授業】

複数の指導者により各々の集団を指導する少人数指導を実施するため、各小学校に1名配置した。複数の指導者を配置し、児童各々の習熟度に応じた授業を行い、基礎・基本の確実な定着や発展的な学習を行うことができた。少人数指導は、担任と指導員が連携し、児童の理解度を高める指導法の一つである。担任は授業に当たり、その準備段階で指導員と十分な打合せを重ねる必要があり、児童の学力向上という目標を達成するため、担任、指導員双方が、当該指導法を活用する力を養うことが求められる。

#### 【外国語活動指導助手派遣】

小学校では、国際理解への基礎づくりとして外国文化への興味・関心を高めることができている。今後も引き続き、学級担任と英語指導助手が役割分担する中で、限られた授業時間を有効に活用し、将来の中学校での授業を見据え、児童の英語に対する興味、関心を高めていく必要がある。

#### 【学校支援員の配置】

平成22年度から、特別支援学級在籍児童に対する個別支援のための配置から、広く低学年の学級運営のための配置に切り替えている。学校の裁量で運用できるようにしたこともあり、柔軟で幅広い対応が可能となった。授業中における担任と学校支援員の役割分担、意思疎通の面で改善がされつつあるが、学校間での運用に差が生じないようにしていく必要がある。

# 事業別経営計画書【B】

## ■基礎情報

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	4
事業名	小学校施設管理事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	1	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	児童が学習の場として一日の大半を過ごす学校施設を安全で安心な場所であるよう、学校施設の維持管理、整備を行う。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設の維持管理</li> <li>・ 教具、その他の設備の修繕</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>		
現在における 経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成22年度に開校した大口北小学校の校舎及び各設備の管理は、大口中学校同様、総合管理としているため、適切な時期に適切な業務を計画的に実施している。</li> <li>・ 大口北小学校プールは、旧施設では井戸水であったが、現施設が水道水に変わったことから、補給水管理等、衛生面に偏った運用のため、他校と比較して水道料金がかさんだが、運用指導により少しずつ改善してきている。</li> <li>・ 大口南小学校は平成24年度から新校舎となるが、大口西小学校については、施設老朽化のため、修繕を要する箇所が増加してきている。</li> </ul>		
平成24年度 の目標又は 改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大口南小学校の施設管理については、特定建築物ではないものの、大口中学校、大口北小学校同様、総合的に管理委託し、異常時に即時対応可能な体制とする。</li> <li>・ 消防点検で大口北小学校の避難袋が不良判定を受けたことから、取替修繕する。また、法改正により消火器更新が必要となったため、大口西小学校舎を優先的に順次更新していく。</li> </ul>		

## ■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4	年間契約となる各施設の保守点検契約（消火器更新含む）
5	大口北小学校避難袋取替修繕
6.7	保健所プール施設検査及び水質検査による指導改善等
5.6	消防設備点検、運動遊具点検結果による修繕等（必要な場合）
11	同上
	<p>【年間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修繕は、学校で要否判断のうえ起案した後、学校教育課で再判断してから施行する。</li> </ul>

## □3年間の目標

項目（単位）	H22 計画	H22 実績	H23 計画	H24 目標	H25 目標	H26 目標
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>					

## □2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>
H26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>

## ■事業コスト

		単位	H22 年度決算額	H23 年度当初予算額	H24 年度計画額
事業費		千円	36,629	36,864	45,142
(内特定財源)		千円	61	45	325
人工	職員	人工	0.6	0.5	0.5
	臨時職員	人工	0.0	0.0	0.0
	計	人工	0.6	0.5	0.5

## ■平成 24 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
行政財産目的外使用料	45	
太陽光発電電力売払収入	280	
合計	325	

## ■平成 24 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
南小学校施設管理委託料	6,543	6,543	新校舎設備向上(EV他)による保守点検費用の増加と施設全体を北小同様総合管理することとしたため。

## ■特記事項

--



## ■目標又は改善策に対する取組内容

大口南小学校の校舎、屋内運動場については、総合的な管理委託とし異常時に即時対応可能な体制とした。

不良判定を受けていた大口北小学校の避難袋について取替修繕を実施した。また、法改正により消火器更新が必要となったため、大口西小学校舎を優先的に順次更新を行った。

## ■評価

大口南小学校の総合管理委託、北小学校の避難袋、消火器更新について、当初予定どおり実施することができた。

南小学校、北小学校校舎については、新しい施設であるため修繕等は少なく適切に維持管理できているが、西小学校については老朽化が進んでいるため、児童の安全を最優先に計画的・効率的な維持管理に努める必要がある。

# 事業別経営計画書【B】

## ■基礎情報

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	5
事業名	小学校整備事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	1	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯教育の推進
目的	児童が学習の場として一日の大半を過ごす学校施設を安全で安心な場所とするため、整備する。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校施設整備</li> <li>・ 教具、その他施設整備</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>		
現在における 経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校舎の耐震化については、平成21年度の大口北小学校移転に伴う耐震化及び増改築工事に続き、平成22年度の大口西小学校耐震補強工事、平成22年度からの大口南小学校新築工事で全小学校が完結する。</li> <li>・ 今後は、東日本大震災を契機に、建物の構造体の耐震化だけではなく、天井材、内装材、窓ガラスの落下等、いわゆる非構造部材の現状把握と対策が求められている。</li> </ul>		
平成24年度の 目標又は 改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 非構造部材の現状把握をもとに、今後の工事の進め方を検討する。</li> <li>・ 平成22年度から各学校による通学路標識等設置要望箇所を順次整備している。</li> <li>・ 平成22年度に台風により損壊し、アコーディオン門扉が動かず、閉まらなくなっている大口西小学校の西門門扉の改修工事を実施する。</li> </ul>		

## ■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4～	通学路追加標識順次整備
5	西小西門門扉改修工事発注

## □3年間の目標

項目（単位）	H22 計画	H22 実績	H23 計画	H24 目標	H25 目標	H26 目標
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>					

## □2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>
H26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>

## ■事業コスト

		単位	H22 年度決算額	H23 年度当初予算額	H24 年度計画額
事業費		千円	5,627	8,500	986
(内特定財源)		千円	5,527	0	0
人工	職員	人工	0.5	0.4	0.4
	臨時職員	人工	0.1	0.1	0.1
	計	人工	0.6	0.5	0.5

## ■平成 24 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
合計		

## ■平成 24 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容

## ■特記事項

- ・非構造部材の耐震化については、直営で目視程度点検作業を終えたところであるが、今後、具体的な耐震化を検討する時期が来る。

## ■ 目標又は改善策に対する取組内容

非構造部材の耐震化については、文部科学省、国土交通省の補助制度について検討すると共に、平成25年度に調査委託発注することとした。また、緊急対策として補正予算対応により各小学校にガラス飛散防止対策工事を実施した。

西小学校については、当所予定どおり西門門扉の改修工事を行った。

通学路安全対策については、愛知県から小学校を対象に緊急合同点検実施の依頼があったため、例年町で実施していた通学路危険箇所改善対策を緊急合同点検として実施した。

## ■ 評価

非構造部材の耐震化については、天井裏、外壁などの隠ぺい部、高所の調査を次年度委託発注することとし、内壁、設備機器、収納棚などの目視可能な所については、職員で実施することとした。今後、調査結果をもとに改修範囲、時期等について改修計画を検討する必要がある。また、災害時のガラス飛散による人的被害や避難経路確保のため、教室・廊下間の窓ガラスに飛散防止フィルムを貼り付ける工事を実施した。

通学路緊急合同点検については、学校からの改善要望に対し、県、警察、町（町民安全課、建設農政課）などの関係機関と現地確認を行い、対策を検討し通学路標識等の設置を行った。また、関係機関による対策についても実施可能なものから、今後計画的に整備を実施していくこととした。

西小学校のアコーディオン門扉については、取り替え工事を実施したことにより、良好な環境を整備することができた。

# 事業別経営計画書【B】

## ■基礎情報

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	6
事業名	小学校教育振興事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	1	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	<p>学校教育は、地方分権型社会への移行とそれに伴う規制緩和の中で、生涯学習の基礎を築く場としての使命を負っているが、本事業により、地域に根ざした特色ある学校教育の実現のため、子どもたちを取り巻く安全な環境づくり、将来を見据えた活力に溢れる学校づくり等、学校における様々な教育課題に応えることを目的とする。</p> <p>また、今後の地域づくりと一体となった基本構想の一層の具体化を進めるとともに、生涯にわたって学び続ける人を育てることを目的とした生涯学習社会の構築を目的とする。</p>		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 副読本、教材の購入</li> <li>・ 教育調査、統計、広報等</li> <li>・ 児童の就学のための援助</li> <li>・ クラブ活動への援助</li> </ul>		
現在における経過又は課題	<p>副読本、教材の購入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育の振興及び保護者の負担軽減のため、副読本等の現物支給やクラブ活動に代表される、体育的・文化的活動への支援を実施している。</li> </ul> <p>児童の就学のための援助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 要保護及び準要保護児童就学援助費並びに特別支援教育就学奨励費では、対象要件が法律等によるものが多いが、当該事業の基準を満たしている保護者への支援を実施してきた。</li> <li>・ 特別支援教育就学奨励については、障がいにより町立小学校に就学していない児童の保護者への支援として、県立特別支援学校に在籍する児童も対象とする対応の検討が必要である。</li> </ul>		
平成 24 年度の目標又は改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童の就学のための援助については、教育振興と保護者の負担軽減の観点から、継続実施する。</li> <li>・ 学校給食費について、現在、大口町立学校給食費の 2 分の 1 を町が補助しているが、障がいにより町立小学校に就学していない児童のうち、県立特別支援学校に在籍する児童への就学奨励として、町立小学校在籍児童と同様、当該県立特別支援学校給食費の 2 分の 1（保護者が負担すべき額の 2 分の 1）を補助する。</li> </ul>		

## ■作業工程（当該年度）

月	作業内容
	<p>【年間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 要保護及び準要保護児童就学援助費申請事務</li> <li>・ 要保護及び準要保護児童就学援助費支払事務</li> <li>・ 特別支援教育就学奨励費申請事務</li> <li>・ 特別支援教育就学奨励費支払事務</li> </ul>

## □3年間の目標

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>					
項目（単位）	H22 計画	H22 実績	H23 計画	H24 目標	H25 目標	H26 目標

## □2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>
H26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>

## ■事業コスト

		単位	H22 年度決算額	H23 年度当初予算額	H24 年度計画額
事業費		千円	7,020	8,608	8,114
(内特定財源)		千円	251	251	200
人工	職員	人工	0.4	0.3	0.3
	臨時職員	人工	0.1	0.1	0.1
	計	人工	0.5	0.4	0.4

## ■平成 24 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
特別支援教育就学奨励費補助金	200	
合計	200	

## ■平成 24 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容

## ■特記事項

--



## ■ 目標又は改善策に対する取組内容

就学のための環境の整備を図ることを目的とし、経済的理由により就学困難と認められる児童の保護者に対して、通学用品費、新入学用品費、校外活動費、修学旅行費、給食費等の援助を行った。

障がいにより町立小学校に就学していない児童のうち、県立特別支援学校に在籍する児童への就学奨励として、町立小学校在籍児童と同様、当該県立特別支援学校給食費の2分の1（保護者が負担すべき額の2分の1）の補助を実施した。

## ■ 評価

義務教育に係る教育費負担の軽減を図るため、対象となった保護者に対し、就学援助を行った。

児童扶養手当の受給によるものが就学援助申請の主な事由である。また、生活困窮による申請も見受けられるようになっているのが現状である。しかし、給食費、学年費等の未納が生じたことによる学校での聞き取りにより、生活困窮が発覚する事例もある。

児童扶養手当を受給する世帯が年々増加し、今後も就学援助費支給認定児童生徒の増加が予想されるため、援助の制度を継続する必要がある。また、対象世帯の把握については、学期ごとに学校からの情報提供を依頼し、適切に対応する。

県立特別支援学校給食費の2分の1（保護者が負担すべき額の2分の1）を補助する制度については、計画どおり実施できた。次年度についても継続実施していく。

# 事業別経営計画書【B】

## ■基礎情報

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	7
事業名	中学校運営事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	1	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	学校・家庭・地域社会の連携のもと、開かれた学校づくりや授業改革をめざした教員の資質向上を図り、学校教育の目的を達成するために、適切かつ効果的に教育事務を推進する。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育調査、統計、広報等</li> <li>・教科書、教材購入</li> <li>・生徒の健康診断</li> <li>・各種検査・テスト</li> </ul>		
現在における経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の多様化に対応するため、教科センター方式を導入した教育活動を進める一方で、自治意識と自浄能力を育むため、学級を基盤とした学年（横）とブロック（縦）の活動を進めている。</li> <li>・学校施設、設備等の教育環境や人的資源等の有効活用を一層研究し、生徒の意欲を喚起する学習指導の推進やブロック活動を通じた全体指導体制の確立、道徳の授業を重視した豊かな心の育成、地域に生きる者として、地域とともに歩む体制づくりに取り組む必要がある。</li> </ul>		
平成 24 年度の目標又は改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科指導と生徒指導との関連を念頭に置きつつ、学年の枠を超えたブロック活動を核に生徒の育成を図るとともに、教職員に対する各種研修を通じ、学校施設、設備等の教育環境や、人的資源等を有効活用した教職員の創意工夫と授業力の向上を図る。</li> <li>・これまでの経過で得た成果、課題等をもとに学校経営計画を策定し、教科センター方式やブロック活動を活かした、地域に根ざした学校づくりとして、独自の教育活動の充実を更に図る。</li> </ul>		

## ■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4	全校生徒によるブロック宿泊研修、目標の設定。
10	前期の評価、後期へ向けての活動内容検討。
3	後期の評価、次年度へ向けての課題、改善策の検討。
	<p>【年間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科センター方式やブロック活動を通じて、学級活動を基盤とした学年やブロック活動等の教育活動を実施し、その都度、問題点の把握と情報共有を図り、改善策を検討する。</li> <li>・生徒一人ひとりに学習意欲を持たせ、基礎学力の向上を図ることで、自ら学ぶ姿勢を育む。</li> </ul>

## □3年間の目標

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>					
項目（単位）	H22 計画	H22 実績	H23 計画	H24 目標	H25 目標	H26 目標

## □2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>
H26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>

## ■事業コスト

		単位	H22 年度決算額	H23 年度当初予算額	H24 年度計画額
事業費		千円	38,986	40,747	42,141
(内特定財源)		千円	769	140	140
人工	職員	人工	0.4	0.3	0.3
	臨時職員	人工	9.5	9.8	10.1
	計	人工	9.9	10.1	10.4

## ■平成 24 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
あいち・出会いと体験の道場事業委託金	140	あいち・出会いと体験の道場推進事業委託料
合 計	140	

## ■平成 24 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
教科書改訂 (10-3-1(3)11-1-4)	3,470	3,470	新学習指導要領の全面実施のため。 (4年毎)
丹葉地方教育事務協議会研究委託料 (10-3-1(3)13-13-1)	912	0	平成22年度から2か年に渡り研究を進めてきたが、個別の予算計上の必要がなくなったため。

## ■特記事項

- ・平成19年度に、平成20年4月の統廃合を伴う中学校開校に向け整備した中学校サーバ等の再構築や、平成21年度学校情報通信技術環境整備事業費補助金の交付決定を受けて導入した大口町立小中学校教育ネットワークコンピューター式等のリプレイスに係る経費を、それぞれ平成24年度、平成26年度当初予算に計上する必要がある。

## ■目標又は改善策に対する取組内容

### 学校経営

大口中学校は、生徒の育成のための教育活動を進めるため、次のとおり目標を掲げ、学校経営を行った。

【教育目標】豊かな心とたくましい体をもち、生涯にわたって自ら学び続ける生徒を育成する

【生徒実践目標】自ら学び鍛え 共に夢と友情を育む

【経営方針】教職員の共通理解のもと、各自の資質と指導力を高め、全教職員で全生徒を育てる。

【重点目標】生徒の意欲を喚起する学習指導の推進、全職員で全生徒を育てる指導体制の確立、人を大切に作る心の育成、地域に支えられ、地域と共に歩む体制の確立

### 学校教育課

学校教育課による中学校運営事業では、「生涯学習の基礎・基本を身に付けるための学校教育の充実」「生徒の安全・安心を優先した教育環境の整備」「地域全体で子どもを育てる環境づくり」のため、大口中学校の学校経営を進める手だてとして、主に次の事業を実施した。

【チームティーチング授業の臨時講師派遣】

基礎・基本の確実な定着、発展的な学習を行うため、生徒の状況に応じた授業を行い、生徒一人ひとりの力を伸ばす教育の充実に努めた。

【英語指導助手派遣】

英語教育の充実を図るため、英語指導助手を派遣し、教諭の指示の下、発音、会話等の指導を行った。

## ■評価

### 学校経営

新生大口中学校から5年が経ち、教員と生徒による教科ラウンジの有効な活用、学級を基盤にした学年（横）、ブロック（縦）の活動等、毎年度、試行錯誤しながらも、着実に独自の学校運営を構築している。特別教室等の学校開放も開始されたため、引き続き、生徒の育成を第一に、地域と関わりあいながら学校経営を進めていく必要がある。

### 学校教育課

【チームティーチング授業の臨時講師派遣】

特定の教科で、生徒の状況に応じて個別指導する等、先生とで役割分担し進めるため、大口中学校に3名配置した。複数の指導者を配置し、生徒各々の習熟度に応じた授業を行い、基礎・基本の確実な定着や発展的な学習を行うことができた。チームティーチングは、担任と臨時講師が連携し、生徒の理解度を高める指導法の一つである。担任は授業に当たり、その準備段階で臨時講師と十分な打合せを重ねる必要があり、生徒の学力向上という目標を達成するため、担任、臨時講師双方が、当該指導法を活用する力を養うことが求められる。

【英語指導助手派遣】

中学校では、英語の正しい発音を学ぶために指導助手を派遣しているが、英語を母国語としている指導助手の発音を生徒が直接聞くことは、外国語を耳で聞いて理解する力を養っている。

今後も、平成24年度から完全実施された新学習指導要領に対応しながら、教科担任と指導助手が、授業展開の事前打合せを十分に行い、生徒に生きた英語力を身につけさせる努力が必要である。

# 事業別経営計画書【B】

## ■基礎情報

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	8
事業名	中学校施設管理事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	1	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	生徒が学習の場として一日の大半を過ごす学校施設が安全で安心な場所であるよう、学校施設の維持管理、整備を行う		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校施設の維持管理</li> <li>・ 教具、その他設備の修繕</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>		
現在における 経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成20年4月の開校以来4年が経過しているが、校舎及び設備の管理については、総合管理としているため、適切な時期に適切な業務を計画的に実施している。</li> <li>・ 新校舎のため、竣工後2年は施工者による修補等に対応したものもあるが、天災等、施工者原因によらない修繕や、従来から使用している備品の修繕、或いは、定期的なメンテナンス工事（施設整備事業）が今後増加するため、計画的な施行が必要となる。</li> <li>・ 樹木管理については、一昨年度から、除草業務の一部をボランティア施行とする等、費用の圧縮や枯木の補植実施も行ってきたが、枯木数が増加したため、対応が困難となっている。</li> </ul>		
平成24年度 の目標又は 改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 樹木の管理費抑制のため、枯木については、今後、補植はせず、撤去のみとする。</li> </ul>		

## ■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4	年間契約となる各施設設備の保守点検契約
6.7	保健所プール施設検査及び水質検査による指導改善等
5.6	消防設備点検、運動遊具点検結果による修繕等（必要な場合）
11	同上（同上）
	<p>【年間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修繕は、学校で要否判断のうえ起案した後、学校教育課で再判断してから施行する。</li> </ul>

## □3年間の目標

項目（単位）	H22 計画	H22 実績	H23 計画	H24 目標	H25 目標	H26 目標
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>					

## □2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>
H26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>

## ■事業コスト

		単位	H22 年度決算額	H23 年度当初予算額	H24 年度計画額
事業費		千円	29,244	29,133	30,802
(内特定財源)		千円	14	12	12
人工	職員	人工	0.6	0.5	0.5
	臨時職員	人工	0.0	0.0	0.0
	計	人工	0.6	0.5	0.5

## ■平成 24 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
行政財産目的外使用料	12	
合計	12	

## ■平成 24 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容

## ■特記事項

--



## ■ 目標又は改善策に対する取組内容

枯木樹木の撤去を行った。

## ■ 評価

樹木の枯木については、景観を損なわないよう必要最低限の補植として維持管理経費抑制に配慮した。校舎及び設備の管理については、総合管理としており、適切な時期に適切な業務を計画的に実施している。

# 事業別経営計画書【B】

## ■基礎情報

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	9
事業名	中学校整備事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	1	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯教育
目的	生徒が学習の場として一日の大半を過ごす学校施設を安全で安心な場所とするため、整備する。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校施設整備</li> <li>・ 教具、その他の施設整備</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>		
現在における 経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校の建設から現在までの間、落雷等、想定していなかった施設被害があり、それらの復旧対応と対策工事費を投じてきた。</li> <li>・ 建設から4年が経過しており、維持管理する上で、校舎の定期的なメンテナンス工事が必要になっている。具体的には、校舎の外部木製ルーバー等の点検、塗装及び腐食防止が挙げられる。</li> </ul>		
平成24年度の 目標又は 改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校舎の外部木製ルーバーは、経年、紫外線等による塗装劣化とともに、一部で、結合部のナットの緩み、ひびやささくれが生じている。木製ルーバーの安全点検とともに塗装を行い、生徒の安全安心を担保できる施設とする。</li> </ul>		

## ■作業工程（当該年度）

月	作業内容
7	校舎外部木製ルーバー点検及び塗装工事発注
8	校舎外部木製ルーバー点検及び塗装工事完了

## □3年間の目標

項目（単位）	H22 計画	H22 実績	H23 計画	H24 目標	H25 目標	H26 目標
目標	・ ・					

## □2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H25 年度	・ ・
H26 年度	・ ・

## ■事業コスト

		単位	H22 年度決算額	H23 年度当初予算額	H24 年度計画額
事業費		千円	12,383	3,150	18,204
(内特定財源)		千円	7,441	0	0
人工	職員	人工	0.2	0.2	0.2
	臨時職員	人工	0.0	0.0	0.0
	計	人工	0.2	0.2	0.2

## ■平成 24 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
合計		

## ■平成 24 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
工事費	18,204	15,054	中学校木製ルーバー塗装工事費

## ■特記事項

- ・開校後15年経過の平成35年には、防水工事を想定(防水工事保証10年)している。

## ■ 目標又は改善策に対する取組内容

当所予定どおり校舎木製ルーバー塗装工事を実施した。

非構造部材の耐震化について、文部科学省、国土交通省の補助制度について検討すると共に、平成25年度に調査委託発注することとした。

通学路安全対策については、愛知県から小学校を対象とした緊急合同点検実施の依頼があったため、例年町で実施していた通学路危険箇所改善対策を緊急合同点検と併せて実施した。

## ■ 評価

校舎木製ルーバー塗装工事については、木材の歪み、塗装の剥離、ボルトの緩み等の点検、調査及び再塗装を実施した。調査した結果、これらの経年劣化については、方位、階数によって度合いが異なることがわかったため、今後、木製ルーバーを最適な状態に保つメンテナンスサイクルとしては、南・西面を7年ごととし、北面については10年に1度再点検・塗装を実施することとした。

非構造部材の耐震化については、天井裏、外壁などの隠ぺい部、高所の調査を次年度委託発注することとし、内壁、設備機器、収納棚などの目視可能な所については、職員で実施することとした。今後、調査結果をもとに改修範囲、時期等について改修計画を検討する必要がある。

通学路緊急合同点検については、学校からの改善要望に対し、県、警察、町（町民安全課、建設農政課）などの関係機関と現地確認を行い、対策を検討し通学路標識等の設置を行った。また、関係機関による対策についても実施可能なものから、今後計画的に整備を実施していくこととした。

# 事業別経営計画書【B】

## ■基礎情報

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	10
事業名	中学校教育振興事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	1	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	<p>学校教育は、地方分権型社会への移行とそれに伴う規制緩和の中で、生涯学習の基礎を築く場としての使命を負っているが、本事業により、地域に根ざした特色ある学校教育の実現のため、子どもたちを取り巻く安全な環境づくり、将来を見据えた活力に溢れる学校づくり等、学校における様々な教育課題にこたえることを目的とする。</p> <p>また、今後の地域づくりと一体となった基本構想の一層の具体化を進めるとともに、生涯にわたって学び続ける人を育てることを目的とした生涯学習社会の構築を目的とする。</p>		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 副読本、教材の購入</li> <li>・ 教育調査、統計、広報等</li> <li>・ 生徒の就学のための援助</li> <li>・ 部活動への援助</li> </ul>		
現在における経過又は課題	<p>副読本、教材の購入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育の振興及び保護者の負担軽減のため、副読本等の現物支給やクラブ活動に代表される、体育的・文化的活動への支援、ブロック宿泊研修への参加負担金の補填をしている。</li> </ul> <p>児童の就学のための援助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 要保護及び準要保護児童就学援助費並びに特別支援教育就学奨励費では、対象要件が法律等によるものが多いが、当該事業の基準を満たしている保護者への支援を実施してきた。</li> <li>・ 特別支援教育就学奨励については、障がいにより町立中学校に就学していない生徒の保護者への支援として、県立特別支援学校に在籍する生徒も対象とする対応の検討が必要である。</li> </ul>		
平成 24 年度の目標又は改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の就学のための援助については、教育振興と保護者の負担軽減の観点から、継続実施する。</li> <li>・ 学校給食費について、現在、大口町立学校給食費の2分の1を町が補助しているが、障がいにより町立中学校に就学していない生徒のうち、県立特別支援学校に在籍する生徒への就学奨励として、町立中学校在籍生徒と同様、当該県立特別支援学校給食費の2分の1（保護者が負担すべき額の2分の1）を補助する。</li> </ul>		

## ■作業工程（当該年度）

月	作 業 内 容
	<p>【年間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 要保護及び準要保護生徒就学援助費申請事務</li> <li>・ 要保護及び準要保護生徒就学援助費支払事務</li> <li>・ 特別支援教育就学奨励費申請事務</li> <li>・ 特別支援教育就学奨励費支払事務</li> </ul>

## □3年間の目標

目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>					
項 目（単位）	H22 計画	H22 実績	H23 計画	H24 目標	H25 目標	H26 目標

## □2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>
H26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>

## ■事業コスト

		単位	H22 年度決算額	H23 年度当初予算額	H24 年度計画額
事業費		千円	10,581	12,726	11,536
(内特定財源)		千円	139	101	70
人工	職員	人工	0.4	0.3	0.3
	臨時職員	人工	0.1	0.1	0.1
	計	人工	0.5	0.4	0.4

## ■平成 24 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
特別支援教育就学奨励費補助金	50	
公立中学校部活動指導費補助金	20	
合計	70	

## ■平成 24 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容

## ■特記事項

--



## ■ 目標又は改善策に対する取組内容

就学のための環境の整備を図ることを目的とし、経済的理由により就学困難と認められる生徒の保護者に対して、通学用品費、新入学用品費、校外活動費、修学旅行費、給食費等の援助を行った。

障がいにより町立中学校に就学していない生徒のうち、県立特別支援学校に在籍する生徒への就学奨励として、町立中学校在籍児童と同様、当該県立特別支援学校給食費の2分の1（保護者が負担すべき額の2分の1）の補助を実施した。

## ■ 評価

義務教育に係る教育費負担の軽減を図るため、対象となった保護者に対し、就学援助を行った。

児童扶養手当の受給によるものが就学援助申請の主な事由である。また、生活困窮による申請も見受けられるようになっているのが現状である。しかし、給食費、学年費等の未納が生じたことによる学校での聞き取りにより、生活困窮が発覚する事例もある。

児童扶養手当を受給する世帯が年々増加し、今後も就学援助費支給認定児童生徒の増加が予想されるため、援助の制度を継続する必要がある。また、対象世帯の把握については、学期ごとに学校からの情報提供を依頼し、適切に対応する。

県立特別支援学校給食費の2分の1（保護者が負担すべき額の2分の1）を補助する制度については、計画どおり実施できた。次年度についても継続実施していく。

# 事業別経営計画書【B】

## ■基礎情報

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	11
事業名	社本育英事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	1	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	大口町名誉町民故社本鋭郎氏のご遺族からの寄付金を基金として昭和57年に発足し、基金運用から生ずる益金等により、大口町在住で町立中学校に在学し、高等学校等へ進学を希望する生徒の中から奨学金を交付し、将来社会の一線で活躍されることを目的とする。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奨学生の推薦及び決定</li> <li>・奨学金の交付</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>		
現在における経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和58年度から平成23年度までの29年間で211名の奨学生が誕生し、それぞれ社会の一線で活躍している。</li> <li>・今後、更に故社本鋭郎氏のご遺族の想いに応えられるよう、事業を展開する必要がある。</li> </ul>		
平成24年度の目標又は改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奨学生については、学校や地域に寄与するところ、あるいは大口町民として、社会人として、それぞれの立場で活躍されているというところでは一定の成果がある。</li> <li>・故社本鋭郎氏のご遺族の想いに応えられるよう奨学生の推薦にあたり、事業を展開していく。</li> </ul>		

## ■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4	奨学金交付
3	奨学生の推薦、奨学生の決定
	<p>【年間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業見込み者（中学3年生）の進路指導と被推薦者の検討</li> </ul>

## □3年間の目標

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>.</li> <li>.</li> </ul>					
項目（単位）	H22 計画	H22 実績	H23 計画	H24 目標	H25 目標	H26 目標

## □2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>.</li> <li>.</li> </ul>
H26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>.</li> <li>.</li> </ul>

## ■事業コスト

		単位	H22 年度決算額	H23 年度当初予算額	H24 年度計画額
事業費		千円	300	300	350
(内特定財源)		千円	51	40	12
人工	職員	人工	0.4	0.3	0.3
	臨時職員	人工	0.1	0.1	0.1
	計	人工	0.5	0.4	0.4

## ■平成 24 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
社本育英事業基金運用収入	12	社本育英事業基金利子等収入
合計	12	

## ■平成 24 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容

## ■特記事項

- ・ 3年学級数を奨学生として推薦する(学級数×50,000円)。

## ■ 目標又は改善策に対する取組内容

大口町社本育英事業運営理事会を平成24年3月24日に開催し、7名の奨学生を決定し、4月4日に授与式を執り行った。

## ■ 評価

故社本鋭郎氏のご遺志とご遺族のご厚意を受け、本事業が継続して実施されることは、少なからず奨学生の心に刻まれ、諸先輩方同様に彼らも本町の明日を担い、本町に寄与する人材となるものと考えている。

本町が考える生涯学習基本構想の中で、若者たちに期待するもの、あるいは将来の彼らに期待するものを十分に理解し事業を進めるとともに、将来にわたって本町に寄与する人材の育成の一助となるよう努める必要がある。

# 事業別経営計画書【A】

## ■基礎情報

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	12
事業名	明日の学校づくり施設整備事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	1	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	児童が学習の場として一日の大半を過ごす学校施設を安全で安心な場所とするため、整備する。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育財産の取得、管理、処分</li> <li>・学校の設置、廃止</li> <li>・学校施設整備</li> <li>・教具、その他施設整備</li> </ul>		
現在における 経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成23年度は、南小学校新築工事（第1工区）、（第2工区）、歩道橋撤去工事を発注し、ほぼ順調に進捗している。</li> <li>・平成24年4月開校に向け、工事完了後の検査、竣工式、引越し等の日程について、詳細に調整する必要がある。</li> </ul>		
平成24年度 の目標又は 改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新校舎、屋内運動場開校後、既設校舎・屋内運動場解体工事、プール建設工事、外構工事を実施する。</li> <li>・児童、周辺地域への安全には十分配慮し、また、新校舎、屋内運動場を利用しながら各工事を実施するため、学校運営への影響を少しでも軽減し、工事を進める必要がある。</li> <li>・北小学校屋内運動場、西小学校校舎・屋内運動場、大口中学校屋内運動場について、大規模改修又建替えについて検討し、方向性を決定する。</li> </ul>		

## ■作業工程（当該年度）

月	作業内容
H24. 2	既設校舎等解体工事発注
H24. 3	契約議決
H24. 4	南小学校新築工事 3 工区（プール建設）、4 工区（外構）発注
H24. 6	契約議決、既設校舎等解体工事完了
H24. 12	プール、外構工事完了
H25. 2	農地復元工事完了

## □3 年間の目標

項目（単位）	H22 計画	H22 実績	H23 計画	H24 目標	H25 目標	H26 目標
大口南小学校建設	10	10	70	20		

## □2 年後、3 年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H25 年度	・ ・
H26 年度	・ ・

## ■事業コスト

		単位	H22 年度決算額	H23 年度当初予算額	H24 年度計画額
事業費		千円	243,183	2,371,288	459,464
(内特定財源)		千円	78,328	739,176	459,046
人工	職員	人工	1.0	0.8	0.8
	臨時職員	人工	0.1	0.1	0.1
	計	人工	1.1	0.9	0.9

## ■平成 24 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
学校施設環境改善交付金	29,046	
学校施設整備基金	430,000	
合計	459,046	

## ■平成 24 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
委託料	15,742	△12,057	南小学校建設工事監理委託料
工事費	443,369	△1,850,027	南小学校建設工事

## ■特記事項

--



## ■目標又は改善策に対する取組内容

平成24年4月新校舎、屋内運動場が開校後、既設校舎、屋内運動場の解体工事を実施し、工事完了後、大口南小学校新築工事（第3工区 プール）、（第4工区 外構）を実施した。また、平成24年4月から南小学校樹木仮植地維持管理業務を発注し、年間を通じて移設樹木や仮設職員駐車場の維持管理を実施した。

また、工事期間中は、運動場の大部分が使用することができなくなり、運動場での諸活動が限定される。そのため、運動会は大口町総合運動場で開催することとし、練習日や当日の児童の移動手段を講じた。

北小学校体育館、西小学校校舎・体育館、大口中学校体育館など学校施設の長期計画については、大規模改修又は建替えなどの検討時期について資料作成を行った。

## ■評価

新校舎、屋内運動場については、平成24年4月28日に内覧会を開催し、多くの町民の方に身近に見ていただくことができた。

既設校舎、屋内運動場の解体工事については、屋内運動場の内壁を撤去したところ、吹付けアスベストが見つかったが、発見後速やかに変更契約手続きを行い、適切に撤去処分し、当初工期内で完了することができた。また、工事施工は児童の安全・学校運営に配慮して進めることができた。

大口南小学校新築工事（第3工区）については、旧プール利用期間中の8月10日までを準備工とし、旧プール開放終了後から工事着工した。大口南小学校新築工事（第4工区）については、学校の夏休みから着工し、8月末までに運動場の一部を整備し、2学期から仮開放しながら工事を進めることができた。いずれの工事も学校運営への影響を少なくして進めることができた。また、平成25年3月12日には、学校運営に関わっていただいている地域の方も招待し、竣工式神事及び式典を行い、新しい施設の内覧を行った。

大口中学校の統合から始まった明日の学校づくり施設整備事業は、今年度を持って全て完了した。